

4万人の見物客で大にぎわい 白石市民春まつり

5月3日、市中心部で恒例の市民春まつりが開催されました。

大パレードに、まちかど音楽祭、米俵相撲大会など、おなじみのイベントをはじめ、フリーマーケットや小店がずらりと建ち並びました。

この日はさわやかな五月晴れ。好天にも誘われて、約4万人の見物客で大にぎわいでした。



▼パレード後、「不況」を退治した甲冑工房「片倉塾」の面々を出迎えるという趣向で行われた「凱旋式」



▲稚児行列



▲「片倉鉄砲隊」演武



▲建設職組合の皆さんによるもちまき

7,208人が参加しました 市内一斉クリーン作戦

4月18日の早朝から、市内一斉に春の市内一斉クリーン作戦が行われました。作戦には、市内合わせて7,208人も市民が参加。市役所に集められたごみは、2トントラック25台分になりました。

また、この日、郡山・上郡山自治会などの皆さんは、地区内の郡山橋から関下橋付近の斎川を清掃し、堤防などから空き缶やビニール類などを回収して、河川の環境美化を図りました。



▲開始式のあった大平地区の皆さん

「白石市みどりの日」 南町で市の花「ヤマブキ」を植樹

「白石市みどりの日」事業として、4月25日、南町自治会の皆さん約40名が、市の花「ヤマブキ」100本を地区内の区民会館や第二幼稚園の敷地に植樹しました。



今年で7回目となるこの事業は、平成9年に開催された全国植樹祭を記念して、「市民ひとりひとりがみどりを守り、育てる」という緑化思想の高揚と緑化の推進を図るため行われているものです。今後、南町自治会の皆さんが樹木の維持管理にあたります。

宮城県の文化財指定を記念して 第1回春の検断屋敷まつり



5月1日、検断屋敷の宮城県有形文化財指定を記念して、「春の検断屋敷まつり」が開催されました。検断屋敷わきの白石川に70匹もの鯉のぼりが勢いよくたなびく中、深谷地区の子どもたちによる「白山白鳥笠松太鼓」の威勢の良い演奏を皮切りに、仙南広域消防音楽隊の演奏やもちまきなどが行われました。この日は5連休の初日とあって、新鮮な山菜などが並んだ「いきいき直売所」やそば処「なごみ茶屋」も、大勢の行楽客でにぎわいました。

いつまでもお元気で

齋藤ひろいさんに松竹梅敬老祝金



5月6日に満100歳の誕生日を迎えた齋藤ひろいさん（半沢屋敷前）宅を川井市長が訪ね、祝詞と松竹梅敬老祝金100万円を贈り、長寿を祝福しました。

明治37年に村田町で誕生され、当時装蹄師（馬に蹄鉄を付ける職人）を営む齋藤家に嫁がれたひろいさんは、現在、4世代・7人家族で幸せにお暮らします。子どものころに習ったという、「年の初めの福寿草」から始まる花ごよみの歌を朗々と披露されるなど、かくしゃくとしたところを見せてくださいました。

どんな小さな事でもお聞きします 市政モニターに委嘱状を交付

4月18日、平成16・17年度の「市政モニター」の委嘱状交付式が市役所で行われ、39名の皆さんが川井市長から委嘱状を受け取りました。

この制度は、市民の生の声をお聞きして、市民の信頼と協力の上で立った市政を目指すため、平成4年から設けられた制度です。

モニターの皆さんには、今後2年間、市政への提言や市のアンケート調査などに協力していただきます。



▲委嘱状を交付されたモニターの皆さんは、市長の講話に続いて市介護予防センターを見学しました。

散歩をしていて気になった。名水と言われた白石の湧水が枯れている。お葉師様に行ったら、参道の登り口に、昔はコンコンとして湧いていたわき水が、もう枯れている。わき口にゴミが詰まって、昔の面影はない。

川井市長のせせらぎトーク



「わさび田」

せつかくのきれいな水が枯れるのは、白石の財産が無くなっていくような気がして、寂しくてならない。

湧水がどれほど貴重なものなのかは、各地で名水を汲むために、行列ができているのを見ても分かる。

さて、小原は湧水の多い場所である。市議員のSさんに、「小原は湧水が多いが、昔、わさびなどを作っていた場所がありましたね」と言ったところ、「昔、山奥で作って、今は放棄してありますが、それでも結構生えているところがあります。何だつたら、見てみませんか。うまくいけば村おこしになると思つて、案内をお願いできますか」と言つたら、喜んでという。ふと気がついて「それは相当歩かないと行けない

という。そこに、軽トラでAさんがやって来た。「あんたのところにあつた柳清水は？」と尋ねたら、あれは斎川の改修で、だいぶ前に枯れてしまったという。



という。そこに、軽トラでAさんがやって来た。「あんたのところにあつた柳清水は？」と尋ねたら、あれは斎川の改修で、だいぶ前に枯れてしまったという。

のですか?」「いえいえ、車から降りてせいぜい百メートルです。担当の課長、その他三人ほどで現場を見に行つた。ところが、なんと百メートルどころか、急峻の道を一キロほど歩かされた。自慢ではないが、私は散歩で鍛えているので、何とか案内人の後をついて行つたが、私の職員は完全にへたつてしまった。私やせ我慢も限界で、そろそろ音を上げる寸前に現場にたどり着いた。

なるほど、両側と下は石が積んであつて下から水がわき、今でもわさびが生えている。かつて、伊豆の方から指導者を呼んで作つた、わさび田だという。「この坂道一キロには参つてしまふ。もつといい場所を探してくださいよ」と帰つた。4月の末に、小原の地元の人たちが相談して、3カ所ほど適当な場所を見つけたという。5月10日に現場を見に行つた。いづれも、耕作放棄地である。清冽な水が涸れと流れている。1カ所などは、典型的な棚田であつた。外国では世界遺産に指定されている棚田が、荒れ果て放棄